



# おおさか

会報 第28号 2008年

The Friendship Force of Osaka

## 新潟クラブとの国内交流報告 交換委員長 市原稔弘

外国との交流は毎年実施しており、これは大切ではあるが、国内のクラブとの交流も大切なことだと、ここ数年大阪クラブでは考えていました。このたび機会があり、新潟クラブにお話をもちかけたところ、快く賛同していただき、大阪クラブとして初めて国内交流が実現しました。

新潟クラブとして多忙な時期にもかかわらず、多くのクラブ会員の方々にお世話になりました。当初、2泊3日の予定で計画しましたが、1日延ばして佐渡島にも訪問してはとのお誘いもあり、

22日	北方文化博物館（館内レストランで両クラブ面会&情報交換）—清水園（新発田）
23日	会津若松方面（飯盛山、鶴ヶ城、世界のガラス館、野口英世記念館）
24日	弥彦神社、良寛ゆかりの国上寺、五合庵、寺泊の魚市場
25日	村松方面、新潟方面などそれぞれのグループで見学

楽しい4日間の交流ができました。大阪クラブからの参加者は12名でした。

伊藤会長の北方文化博物館にはじまり、会津若松方面、新潟市内、村松方面、胎内市、弥彦方面などなど、広い新潟県のいろいろな所を案内していただきました。専用バスの中で新潟クラブの方々のくわしい説明が聞け、新潟がより親しく感じられました。

村松方面での車の中で、副会長の横山氏から「この阿賀野川で子供たちとカヌーで時々下ります。そのときダムの人に水量調節に協力してもらいます」とのお話が出て、フッと窓の外を見ると小学校が目に入りました。その広い校庭には垣根がありません。つまり住民は自由に学校に出入りが出来る様子。高い塀、閉ざされた校門、監視カメラなどでガードされた



都会の学童達と、住民たちに見守られ、大自然に親しみながらのびのびと育つこの地の学童達、深く考えさせられるバスの中でした。

お忙しい中、チームプレイよろしく、私たちを案内していただいた新潟クラブの方々に深く感謝します。訪問した大阪クラブの全員が、新潟の大自然にふれ、新潟クラブの皆様の暖かいもてなしに感謝、感激の4日間でした。

# ホームステイの楽しい思い出

三地区に分かれてのホームステイでしたので、アンバサダーそれぞれがホスト家庭でどう過ごしていたのかをまとめてみました。

## 村松ステイグループ

◇横山様宅<森本・市原・南方・池田>

新潟市の隣町五泉市の村松地区で旅館を営んでおられ、奥さんが足を挫いてご不自由にもかかわらず献身的なそして自然体でのもてなしに感服しました。三夜にわたり全国的に有名な新潟の3銘柄の日本酒（越乃寒梅、雪中梅、越後杜氏）と新鮮な魚をたらふく御馳走になり幸せいっぱいでした。



羽下（はが）様宅はご主人が若い市議員、栗園経営、塾長を勤められ奥様も看護師長でお忙しいなか、内山・小林の2名を暖かく迎えてくださいました。おじいちゃん、おばあちゃんと3人の娘さんを加えた7人家族の家事の切り盛りは元気で朗らかなおばあちゃんでした。おばあちゃんの手料理は帰宅本能を刺激します。本当に温かいご家庭で家族の一員のようにくつろぐことができました。

## 中条ステイグループ

新潟市から車で北へ30分程行った胎内市（中条町との合併でできた市）の佐藤様宅には、森、古川の2名がお世話になりました。佐藤家は会社経営をされておられ大変やさしいご夫妻でした。日没を待って山頂にあるおとぎ話のお城のようなホテル（胎内市営）の露天風呂から満点の星空を眺め裸の



付き合いが始まりました。二日目は近くのゴルフ場にある天然温泉のあと、佐藤ご夫妻とともに小野様というメンバー宅に招待され、名物の「ノッペイ汁」他の歓待に大満足。三日目はやさしいご主人様が用意して下さった岩室温泉での夜。3人が枕を並べて人生談義に花を咲かせました。連日温かいおもてなしを受け心温まる交流に感謝感激でした。（左写真は新潟クラブの皆様方）

## 北方文化博物館と伊藤文吉館長



FF新潟クラブといえば、伊藤文吉会長なしでは語れないくらい氏のご名声、ご経歴はフレンドシップフォースでは知れ渡っています。今回大阪クラブからの参加者は、伊藤会長が館長をなさっている「豪農の館」北方文化博物館を初めて訪れて、館長自らのご案内とご説明をいただきました。

新潟県最大の地主として営々として築き上げてきた豪農の館を戦後の農地解放政策の嵐の中で、父上である七代文吉氏が博物館として残された、その経緯や歴史を淡々と話してくださいました。特に七代文吉氏が駐留米軍のライト氏とペンシルヴァニア大学の同窓であることが判明して博物館第一号になったいきさつ、又その後この結びつきを現館長である八代が記念碑にして残されたことなど深い感銘を受けました。

いまこうして、豪農の生活文化という遺産を守り、一般に公開されている現館長ご自身の哲学や人生観が穏やかな口調で語られ、そのお人柄に皆、魅了されたようです。

参加者の殆どが氏の回想録「わが思いは錆びず」(新潟日報事業社)を買い求めて読み、氏の言葉の裏にある歴史の重みや、人との出会いの不思議さ、生きている文化を引き継いで伝えていくことの意味など改めて感じたのでした。

### 新潟地区ステイグループ

新潟市内には加賀田さんのお宅に4人の女性がステイいたしました。彼女は2005年に大阪クラブが日本大会を開催した時、新潟クラブから参加されていたので、顔見知りでもありました。気さくなお人柄と肝っ玉母さんのようなきっぷの良さで、「二人も四人も同じこと



よ」と米井、細辻、森川、大下がお世話になりました。

広いお宅は間取りが変わっていて、「わたしのお部屋はどう行くのでしょうか？」と迷子になる始末。毎回、お食事の時は美味しいご馳走に舌づつみをうちながら、そこは皆が主婦、「どうやって作るのですか？」という問いに加賀田さんは実習つきで教えてくださいました。又、生産現場である農家(弟さん宅)にも連れて行ってくだ



さり、稲穂の実りを見て、野菜畑を見学。新鮮野菜の即売には  
ついつい主婦本能在働き、重さも考えず買い込む始末でした。

香りたかい駄々茶豆をつまみながら、夜遅くまで、おしゃべりし、加賀田さんの豊富な人生体験談に感動したり、共鳴したり、楽しい合宿のような4日間でした。

新潟の瀬賀EDと大阪の市原ED、ありがとうございました。



## 中部ブロック会議の報告 会長 森本吉彦

◆現在このフレンドシップ フォースとしての公式会議としては何があるの？ いい機会であり  
ますので、簡単にご紹介をいたしましょう。

- ① 世界大会。年1回。今年はおーストラリアで。来年は11月に沖縄です。
- ② 日本大会。原則年1回。但し、今年はない。来年は2月に東京で。
- ③ 中部ブロック会議。年1回。今年7月に開催。

この3つもFFの会員であれば誰でも参加できます。

◆さて、今年の中中部ブロック会議は7月21日に名古屋でありました。静岡・愛知・岐阜・三重・奈良・大阪・京都  
福知山の7クラブが集まりました。これにはアトランタ本部から日本担当のマリアム・ジョーダン女史と東京本部  
の石井女史も出席され総勢42名。大阪からは森本・大下・朝倉隆夫・朝倉清美の4委員が出席しました。

ブロック会議の議長はFR(=Field Representative)と称していますが、奈良クラブの大西会  
長が務めておられます。会議では次のような議題が議論されました。

- ① 会員を増やすにはどうすればいいのか。
- ② 会員の高齢化対策。若い人たちにもっと参加してほしい。
- ③ ED(渡航/受け入れの委員長)の選出方法、その協力・補佐。
- ④ 受け入れ時の必要経費捻出法。
- ⑤ 会員の積極性をどう維持するか。
- ⑥ 受け入れ時の保険付帯。

◆当然ですが基本的には似たような活動をしていますので、なかなか活発な議論が展開され  
実り多い会合でした。今後とも会員の皆さんが積極的にこういう場に出て頂ければ視野も広  
がり友人もでき結構かと思えます。

FFの新しいロ  
ゴができた  
。早速タイト  
ルに使用した



friendship force  
OSAKA

編集・発行 フレンドシップ フォース 大阪クラブ  
発行日 2008年10月5日 第28号  
事務局 〒594-0013 和泉市鶴山台3-1-40  
朝倉 隆夫 tel&fax 0725-43-8331  
[osaka@friendshipforce.jp](mailto:osaka@friendshipforce.jp)  
<http://www.friendshipforce.jp/osaka/>  
編集人 池田政綱・市原稔弘・大下すみ子・四ノ宮榆里

### 編集後記

- ◇国内交流の皆様の喜びを、紙面から感じとって  
いただけたでしょうか？ (T)
- ◇FF 新潟の伊藤文吉会長にお会いし FF 日本の源  
流に触れた気がしました。(M)
- ◇海外の交流とは又一味違った国内交流を、今ま  
でとは一味違う紙面でお届けできれば願いつ  
つ・・・。(S)
- ◇夕暮れの早さに季節の移ろいを感じます。今年  
3回目のニュースレター。次はハワイです！(Y)